

芦安小学校後期自己評価書

令和3年1月20日

1 評価方法

学校評価の方法として、「Ⅰ. 学校運営・学校経営」、「Ⅱ. 学習指導」、「Ⅲ. 生徒指導」、「Ⅳ. 保護者・地域との連携」、「Ⅴ. 学校の特色ある取組」の5領域を設定し、取り組みの状況・結果を把握する方法としてアンケート（教職員・児童・保護者）を行った。

質問に対する回答選択肢は基本的に4段階である。

A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない

このうちAとBは肯定的なプラス評価、CとDは否定的なマイナス評価である。

A・B・C・Dのそれぞれの選択肢を点数化し、

A=4 B=3 C=2 D=1

として集計し、回答者数で割って平均点をもとめた。

- ・全体にプラス評価（A・B）が多ければ、平均点は3点以上になり、4点に近づいていく。
- ・全体にマイナス評価（C・D）が多ければ、平均点は2点以下となり、1点に近づいていく。

教職員数ならびに保護者、児童数ともに、アンケート数は少ないが、2学期以降、共通理解して取り組む必要があることが明らかになったものもある。

2 学校評価の分析と改善方策

〔全体評価〕

アンケート調査の結果から、児童・教職員・保護者共に、前期同様多くの項目で肯定的評価となった。芦安小学校の教育活動が、保護者や地域の理解と協力を得ながら、効果的に実施されている。また、多くの児童は、学校生活を楽しいと感じ、授業へ意欲的に取り組み、充実した学校生活を送っている。また、家庭を含め生活習慣がしっかりできている様子が見取れる。

（1）学校運営・学校経営

〔達成状況〕

前期同様に、良好な状態である。多くの項目で全職員から肯定的な評価が得られている。校務分掌が適切に機能し、生徒指導上の課題に学校全体で組織的に対応できている。防犯や防災管理など安全管理については、十分に対応ができていた。

課題として、コロナ禍で小中学生が共に活動することを制限される中、小中連携の取組や教育活動を積極的に行うことが困難であった。

〔改善策〕

コロナ感染症への対応など、教育活動全般に対して、常に多くの変化を求められている。これからも、児童生徒が、安全に安心して、楽しい学校生活を送れるよう

に、日々の教育活動のねらいや目標を見定め、ぶれることなく取り組みを進めていきたい。

将来的には、児童生徒数の減少に伴い、小中学校合わせての教職員数の減少などが予想される。だからこそ、今後も、教育活動全般に対して、教職員全体で一層同僚性を高めるとともに、保護者・地域の皆様の理解を得て、積極的に協力していただけるよう取り組む必要がある。

（２）学習指導

〔達成状況〕

教職員の自己評価からは、学習のめあてを示すことや基礎基本の確実な定着に向けて、授業改善が確実に進められていることがわかる。児童アンケートや保護者アンケートから、一人一人に合わせたきめ細かな指導が行われていることが分かった。

課題として、改善傾向にはあるが、発表・話し合い活動など言語活動を重視した授業が十分にできていないことと、家庭学習について、あげられている。

〔改善策〕

わかる授業・楽しい授業の実践、学習習慣の定着に向けて、児童の実態に応じた課題設定やPCやタブレットを用いた授業の導入の工夫・家庭学習の取組などを継続して行う。また、複数の学年での授業やリモートを利用した他校との交流など、少人数学級でも可能な話し合い活動のあり方など、工夫して取り組んでいきたい。

（３）生徒指導

〔達成状況〕

教職員のアンケートからは、生徒指導上の課題に向けて、学級担任をはじめ、全教職員で取り組んできたことが分かる。また、児童一人一人とのコミュニケーションを大切にしながら児童理解、共感的理解に努め、信頼関係を深めてきたことが読み取れる。一方では、児童・保護者アンケートからは、継続して、いじめの問題、友達同士のトラブル、また、学校からの保護者へ対しての情報・対応が不十分だとする意見があった。

〔改善策〕

今後は、「児童同士の信頼関係づくり」に取り組む。「いやなことが嫌と言える」「自分の意見を聞いてもらえる」など関係づくりへ向け、取組を実践する。次に、「児童生徒と担任との信頼関係づくり」、同時に「保護者と担任との信頼関係づくり」に取り組む。今までも、児童一人一人に声をかけ、児童の悩みや考えを大切にしてきた。今後は、さらに保護者との担任や学校と保護者との情報交換を密にし、児童とともに保護者の悩みや不安などを共有し、解決にあたっていきたい。

また、いじめは決して許されないこと、学校生活の中でけじめをつけることなど、規範意識や礼儀を機会あるごとに、全教職員で指導していきたい。

(4) 保護者・地域との連携

〔達成状況〕

保護者・地域との連携については、前期同様に課題となった。保護者が学校の教育活動を参観する機会や PTA 活動をする機会が十分に設けることができなかった。

地域との連携については、1 学期に実施できなかった自然体験活動や登山、総合的な学習の取組などは、大きく内容を変更し実施することができた。登校時の地域の方々の交通指導やあいさつ運動などに積極的に参加・協力をいただくことができた。それは、保護者の理解・協力、さらに、地域の方々の協力があったからである。心から感謝したい。

保護者・地域への学校教育活動の情報提供は、学校だより・学年だよりを通して、広くは新聞等の掲載を通じて行ってきたが、情報提供の改善を求める声もある。

〔改善策〕

今後は、コロナ感染症対策を十二分に実施し、学校行事や PTA 活動では、芦安小中学校の伝統・文化を大切に、保護者や地域の方々の理解と協力を得て、各取組を改善・充実していきたい。

保護者からの学校教育の理解・信頼は、保護者との連携の基盤となるところである。それを維持向上させるために、一斉に授業参観や学校開放を行うのではなく、少人数での授業参観を行っていききたい。また、児童や他の保護者からの情報が混乱を招くことがあるので、担任から保護者へ電話や連絡帳で確実な情報提供に努めていききたい。

V. 学校の特色ある取組

〔達成状況〕

良好である。学校林整備活動など一部実施できない活動があったが、登山や総合的な学習を通じ自然体験活動を実施することができた。芦安ファンクラブをはじめ、地域の方々の支えがあつての成果と言える。特に、読書活動については、前期・後期を通じて、素晴らしい結果となった。読書の冊数がとても多く、司書を中心にして充実した取組の成果が表れている。

〔改善策〕

「芦安郷育」「小中一貫教育」は、保護者、地域の方々に、大きく支えられている。コロナ禍であるからこそ、保護者・地域に積極的に情報を発信し、説明責任を果たし、声に耳を傾け、信頼を得て、連携・協働しながら教育活動を充実させていきたい。小学校では、全ての学校で外国語科が実施されている。芦安小学校でこれまでに培った児童の英会話力、コミュニケーション能力を維持向上させるために、ICT の利用や英語に堪能な地域人材等の方々の協力を得て、取組を充実させたい。

学校教育目標を見据え、活動の反省をもとに、小中一貫教育のさらなる充実に向けて、全職員が協力して、来年度も本校の特色ある取組を推進していきたい。